健 康 福 祉 委 員 会 記 録

日 時	令和6年6月21日（金） 午後 1時00分～午後 1時54分 午後 1時59分～午後 2時10分
場 所	第2・第3委員会室
出席委員	◎桜田慎太郎 ○後藤浩一郎 北村 和之 田中 晋 林 紗絵子 古川 隆史 武藤美津江 渡邊 晋宏
委員外出席者	なし
欠席議員	伊藤 誠
説明のため出席した者	副市長（染谷康則） 健康医療部長（高橋裕之） 健康医療部理事（吉田みどり） 健康医療部理事（小倉孝之） 健康増進課長（浅野美穂子） 健康増進課統括リーダー（五十嵐真由美） 福祉部長（谷口恵子） 次長兼生活支援課長（矢部裕美子） 福祉政策課長（虻川純子） 福祉政策課統括リーダー（高橋志布） 障害福祉課長（後藤能成） 障害福祉課副参事（野村 聡） その他関係職員

○

午後 1時開会

○委員長 ただいまから健康福祉委員会を開会いたします。

○委員長 初めに、傍聴についてですが、申出の人数が10人を超えた場合には、当委員会室に傍聴者全員が入ることはできません。そこで、当委員会室で傍聴できる方を傍聴受付の先着順としたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 それでは、傍聴を許可することとし、当委員会室で傍聴する方は傍聴受付の先着順によることとします。委員会室に入室できなかった方につきましては、控室で音声を聞くことができますので、よろしく願いいたします。

それでは、お手元に配付の審査区分表に従い、審査を進めてまいりたいと思います。なお、質疑の方法は一問一答方式を基本とし、採決は各区分の質疑が終了した後、議案は1件ずつ行います。

委員長から執行部をお願いいたします。答弁に当たっては、委員長と発言の上、挙手をしてください。発言の許可を得た上で必ず所属と名前を述べ、簡明な答弁に努められるようお願いいたします。また、答弁漏れののないよう御注意願います。

なお、執行部には反問権を付与しておりますので、反対質問があるときは反問しますと申し出てください。質問の流れと関係のない反問は認められません。また、反問が終了した際はその旨の発言をしてください。

重ねてお願い申し上げます。携帯電話をお持ちの方は、必ず電源を切るかマナーモードに設定してください。また、持込みが認められたタブレット端末以外の電子機器の持込みは禁止されていますので、御注意ください。

最後に、本日は必要に応じ休憩を入れ、換気を行う場合がありますので、よろしく願いいたします。

○委員長 それでは、議案審査に入ります。

議案の審査に当たって、質疑を行う際にはくれぐれも一般質問とはならないよう御協力をお願いいたします。

まず、議案第1区分、議案第15号、令和6年度柏市一般会計補正予算、当委員会所管分についてを議題といたします。

それでは、本議案について質疑があれば、これを許します。

○林 それでは、第15号の補正予算から伺います。まず、障害福祉サービスの施設等改造等補助金です。発達支援室が私いまいちちょっと分かっていなくて、事前にいろいろお聞きしました。ありがとうございます。認可保育園のかしわたなかこころ保育園の中に発達支援室を併設するための整備費の補助金と伺っています。児童発達支援事業って調べたらいろいろなタイプがあると思うんですけど、御説明の感じだと、この発達支援室は親子分離型の通園タイプというような理解でよろしい

でしょうか。

○障害福祉課長 委員おっしゃるとおりです。以上です。

○林 定員は10名というふうに伺っているんですけど、これに関しては集団支援なんですか。個別支援なんですか。

○障害福祉課副参事 こちらのほうは療育となっておりまして、集団支援と、それから個別、御本人の状況に応じて行っております。以上です。

○林 ありがとうございます。お聞きした中で、市内の児童発達支援事業所は55事業所あって、定員が600名になっているというようなことだったんですけど、ちょっとこれはよく分からないんですけど、どのようなタイプの運営が柏市はこの55事業所の中では多いんでしょうか。

○障害福祉課長 いろんなタイプがあるかと思いますが、放課後等デイサービスと併設をしていたりとか、相談事業所と併設していたりとか、いろんなケースがございます。以上です。

○林 今市内のニーズに対して割と充足しているというふうにおっしゃっていたと思うんですけど、これについてちょっと状況を詳しく伺ってもよろしいですか。

○障害福祉課長 ノーマライゼーションかしわプランというものがございまして、ノーマライゼーションかしわプラン2024の中では、令和8年度までのサービス見込量として月当たりの利用を1,025人とさせていただいております。令和5年度末の実績で788人ですので、そういったことからおおむね充足は現時点ではしていると思っています。今後またサービスのほうを提供するよう順次施設を整備していく予定でございます。以上です。

○林 御家庭によっては、親子を分離するようなタイプを望まれている方とか、そうではなくて一緒に支援を受けたいという方もいらっしゃると思うんですけど、種類ごとの充足というか、希望に対する充足というのもおおむね充足しているんでしょうか。

○障害福祉課副参事 今委員おっしゃったとおりというふうに考えております。やはりそれぞれの児童発達支援事業所、特色がございますので、あと最近の特徴としては、保育園、幼稚園、それからこども園を併用している方が非常に多くございます。そういったところでお子さんの状況に応じた形での支援を提供しているというふうに考えております。以上です。

○林 ありがとうございます。

それでは、生活保護システムの標準化について伺います。システムの標準化は、全額国からの補助だったと思うんですけど、今回もそうでしょうか。

○次長兼生活支援課長 おっしゃるとおり、国の補助の10分の10となっております。以上です。

○林 令和7年度までに柏市では20の業務システムを標準化するというようなお話だったと思うんですけど、柏市の進捗というのはどうなんですか。

○次長兼生活支援課長 全体としてはDX推進課が管理しているんですけども、

市全体としてもおおよそ今年度準備を始めまして、来年度、令和7年夏から秋にかけて全制度の改修が終了する予定でございます。以上です。

○林 分かりました。

それでは、音声マイニングシステムの導入について伺います。デジタル田園都市国家構想交付金のデジタル実装タイプのタイプSというのを千葉県が採択して、県と重層的支援体制整備事業に取り組んでいる8市の福祉相談窓口はこの音声マイニングシステムを共同調達するというふうに県のホームページに書いてあったんですけど、これということによろしいのでしょうか。

○福祉政策課長 委員おっしゃるとおりです。以上です。

○林 その同じページに、デジタル田園都市国家構想交付金を使って、これだけじゃなくて重層的支援体制整備事業に係るデジタル化検討会及び相談記録プラットフォームのプロトタイプの開発導入というのも書いてあったんですけど、これにも柏市は参加するのでしょうか。

○福祉政策課長 そのとおりです。以上です。

○林 このデジタル化検討会というのは何となく想像つくんですけど、相談記録プラットフォームのプロトタイプ開発導入というのが全くイメージがつかなくて、ちょっと御説明いただけたらと思います。

○福祉政策課統括リーダー 検討会を経て、相談記録の各市の中でまだこのシステム自体が使われていないというか、県のほうでどのような需要があって、その辺を検討会で構築した上で開発していきましようというような形で、その検討会の名前のプラットフォームという名前を置いているというような形でございます。以上です。

○林 分かりました。ありがとうございます。

AIチャットボットについても書いてあったんですけど、柏市では既にあいネットに導入していたと思います。これに関しては、今回の交付金は関係ないのでしょうか。

○福祉政策課長 AIチャットボットは今回の交付金とは違うものでございます。以上です。

○林 分かりました。

千葉県がこれからプロポーザルで業者を選定して、県及び8市で導入スケジュールを調整し、順次導入しますということで、10月以降に本格稼働を想定しているということでした。この千葉県のプロポーザルには、柏市からも参加して意見を言ったりとかできるんですか。

○福祉政策課長 柏市からも参加をいたしまして、意見を述べる機会が与えられております。以上です。

○林 分かりました。

それでは、新型コロナウイルス感染症の予防接種事業について伺います。一般質問でも取り上げましたので、事業費の内訳などはおおむね理解していると私は思っているん

ですけど、ちょっと1点だけ気になって確認したいなと思うんですけど、この6億4,300万円という大きな事業費の補正予算じゃないですか。これに対して私たち議員は内容を十分に理解した上で賛否を決めなければいけないという立場です。なので、一つ一つの事業の必要性に対しての説明責任というのは執行部側にあるのではないかなと思っているんですけど、これについて私の認識で間違っていないでしょうか。

○健康増進課統括リーダー 我々のほうでもきちんと、今度定期接種化されますので、市民の皆様にもちゃんと説明をして、市民の皆様にもちゃんと説明をして今後も広報等で周知してまいります。以上です。

○林 新型コロナワクチンに集団免疫効果があるかどうかは分かっていませんと厚労省のホームページに書いてあるんです。だとしたら、この新型コロナワクチンの定期接種化というのは恐らく重症化予防効果を期待している部分じゃないかなと思ったので、現段階で本市のコロナ患者のどれぐらいが重症化しているのかというような内容の質問を私はしたんです。それに対して部長がお答えになったのが、定点報告になって全数報告じゃないから分からないという内容だったんです。もちろん全数把握ができていないことは分かっている質問しているので、医師会に聞くとか、厚労省が毎週報告している定点報告から人口割で計算するとか、何か説明責任を果たすような答弁がいただけるものだと期待していたんです、私は。それがなくてちょっと残念でした。ここに関しては、もう一度お聞きしたいと思っています。執行部は、現在市内のコロナ患者の最近の状況、重症化の状況などを把握していないのでしょうか。

○健康医療部長 今委員さんおっしゃったように、それぞれの病院から全て情報が上がってくれば、そういう重症化の人数であったりとかというのは確認できるんですけども、今は仕組みとして病院から御報告をいただくような形になってはいないので、残念ながら市としてはそれが把握できていないと。ただ、当然報道等によって、年末年始にかけてやはり感染が広がって、重症患者が増えて、医療機関においてもちょっと増えているとかいうことは市内の病院関連からお伺いしていますけども、現時点において重症化の患者さんがいらっしゃるといことは特には聞いておりません。以上です。

○林 そうなると、せめて今みたいなお答えが欲しかったんです、私は。現段階では重症化の患者は聞いていませんとか、国の動向は見ていて、冬場にちょっと上がったとかしていますとか、そこに関しては、一つ一つの事業の必要性に対しての説明責任を果たすための答弁というところがちょっと残念だったんじゃないかなと思っています。国の定点報告の状況を見ると、まだ波があるじゃないですか。波の大きさがだんだん下がってきていると思うんです。そんな中での定期接種化に対して、国が幾らお金出して、市がお金出して自己負担額を幾らにするというような議案なので、柏市がここに2億2,500万円を投じて、接種したい方の自己負担額を減らす費用対効果があるのかどうかということをもうちょっと検討したいなと思った

んです。この費用対効果に関しては、どのようにお考えでしょうか。

○健康増進課統括リーダー 今回定期接種化に当たりまして、まず対象のほうに65歳の高齢者と、あと60歳から64歳の基礎疾患を有する方と、今までの全員接種とはまた状態が変わっております。今年から定期接種になりまして、重症化リスクの高い高齢者の方が、新しい流行しているワクチン、そういった対応をしたワクチンを持ち得ることで重症化予防とか発症予防効果の向上が期待されると報告されております。そういったことでも、我々としても法律に基づいて接種体制を確保していくという必要があると思っております。以上です。

○林 そうなると、重症化予防効果を期待して打つということだと思いますので、答弁の中で、同じ高齢者の定期接種のワクチン、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの自己負担額35%、こうしているから、コロナワクチンも35%に合わせて計算しましたというようなお話だったと思うんですけど、侵襲性の肺炎球菌感染症って結構致死率も高くて、インフルエンザとコロナはそれと比べたら大分重症化率も致死率もかなり低い感染症じゃないかなと推測できるんです。なので、自己負担額の割合を肺炎球菌ワクチンとちょっと変えてもいいんじゃないかなと思うんですけど、ここに関しては検討されましたか。

○健康増進課長 自己負担額の設定につきましては、何%にするかという検討は幾つかのシミュレーションに基づいて実施いたしました。ただ、結果として市民の方に今までB類でお願いをしていた自己負担額に合わせるということで、幾つか検討はしたんですけども、結果として35%御負担いただくということで決めさせていただいたところになります。以上になります。

○林 分かりました。では、幾つか検討したということ。

この国庫負担の4億1,500万円にもちょっと大きな疑問があって、昨日担当の方とお話ししていてびっくりしたんですけど、昨年度のコロナワクチン1本当当たりの値段と今年度の値段に大きな差があるということでした。国庫負担は当初予定の金額から上がった分に充当するものというふうに聞いたんですけど、この金額について御説明いただけますか。

○健康増進課長 このワクチン単価につきましては、昨年12月の時点で国から示されたワクチン代は3,260円ということで、標準的な価格としてワクチン代が3,260円、手技料が3,740円、合計で7,000円という形で一旦示されました。その後、今年に入りまして3月に、国が2月にワクチンメーカーから徴取した希望小売価格というものがこの時点で大きく変わりました。ワクチン代を1万1,600円に見直しますということで国から説明がありました。当初示していただいていた標準的な価格よりも大分上振れましたので、その分、上振れた分の8,300円を国が助成金として本年度市町村に出すということで説明を受けました。以上になります。

○林 分かりました。そうすると、3,260円だったものが1万1,600円になったということで、この金額が上がった理由は、製薬会社の小売希望価格が上がったからだという認識でよろしいでしょうか。

○健康増進課長 おっしゃるとおりです。以上になります。

○林 同じような効果の薬が定期接種化に伴ってこれだけ増額する。その分を国が全額負担するよということに、ちょっと私は国民の一人として、税金の使い方としてどうなんだろう、許せないなという思いがあるので、それが一番の理由でこの補正にはちょっと賛成いたしかねるなど考えています。だから、市の問題というよりは国の問題だとは思っています。でも、本市が2億2,500万円を出すというのも、もうちょっと少なくてもよかったんじゃないかなというような思いもあります。私の一般会計補正予算についての質疑は以上です。

○武藤 障害福祉施設の解体撤去のことで伺います。障害施設の美南園が老朽化で解体工事をするための補正予算1億320万円ですけども、当初予算が5,900万円で、今回増額された分が4,500万円ですが、これは何で増えたんでしょうか。

○障害福祉課長 当初の予算の要求時には設計委託前の概算額で要求をしておりましたので、その後設計を委託して、完了してきちんと積算した結果で今回は補正予算の要求をさせていただいております。その分の差額に関しては、特に大きかったのはやっぱり労務単価、人件費に関してかなり増額をしたと聞いております。以上です。

○武藤 当初予算のときには設計委託をしていなくて、設計委託をしたら、委託費とか、そういうのも入っているんですか。

○障害福祉課長 委託というか、工事の本当に概算で出したものなので、きちんとした積算ではなかったの、きちんと積み上げた結果、この金額になったということです。以上です。

○武藤 増額の金額があまりにも大きいんじゃないかと思うんです。解体費用が当初は5,900万円ぐらいで、増額した額が4,500万円ですよ。労務費が幾ら上がっているといっても、これだけ上がるのかなと思うんですけど、どうなんでしょうか。

○障害福祉課長 労務費だけではなくて、それぞれの積算においてきちんと計算した結果、この結果になったということです。特に大きかったのが労務費だったということです。

○武藤 何かちょっと納得いかないような感じもあるんですけども、最初から当初予算で出す予定だったときからしっかりした数字を出していただきたいと思えます。それと、施設運営法人と地権者との調整に時間がかかったということなんですけど、それはなぜなんでしょうか。

○障害福祉課副参事 地権者との調整についてなんですけれども、もともと地権者と、あと建物のほうを市が所有しているものでございます。地権者と運営法人、それから私ども柏市のほうで協議をずっと続けてきたところだったんですけども、最終的な解体に当たっての工事の在り方等々を含めて協議に少し時間がかかったところもございまして、今回このような形で補正予算を提出したというところでございます。以上です。

○武藤 協議の時間がかかった具体的な内容というのは、何でそんなに調整が必要

だったんでしょうか。

○障害福祉課副参事 これにつきましては、主に解体をした後どうするかというところについて時間がかかったところがございます。以上です。

○武藤 解体した後に、その土地にもう一度美南園を建て直すかどうか、地権者のほうの方はもうそれはできないよというような、そういうお話があったということでしょうか。

○障害福祉課副参事 建物は、市の建物で使用していたところではあるんですけども、何分今の土地というのが若干狭いところもございます。そういったところも含めて、所有者の方、それから市、それから運営法人、その3者でどのような形にしていくかというところで協議に時間がかかったということもございます。以上です。

○武藤 そうなると、美南園は再建できるんでしょうか。新しく建て直しできるんですか。

○障害福祉課長 私どもとしても、利用者のことを考えれば現地の建て替えが望ましいのかなというふうには考えておりますけれども、あくまでその土地を持っている方が民地ということもあって、なかなかいろいろその賃貸借に当たって条件を付与したりとか、そういったようなことがあるということもちょっとお聞きをしておりますので、どうしても当事者同士での協議が基本かなというふうには考えております。以上です。

○武藤 美南園には何人の利用者の方がいたんでしょうか。

○障害福祉課長 定員が50名なんですけれども、3月末時点で26人利用させていただいていました。ほかの施設にもう受入れ済みでして、朋生園に7人、あすか園に18人、ほかの施設に1人移動ということでお願いをしております。以上です。

○武藤 朋生園に7人で、あすか園に18人ということなんですけれども、それぞれの施設の定員というのは、美南園の方の利用者がそちらに移ったことによってオーバーしたりとか、そういうことはないんですか。

○障害福祉課長 まず、美南園の利用者の受入れをするために、朋生園なんですけれども、朋生園に関しては、定員50名なんですけど、内訳の変更というものをさせていただいています。具体的には、生活介護のほうを21人だったのを23人に、就労継続支援B型を29人だったのを23人に変えて受入れを行っております。もう一つのあすか園に関しては、定員増員をさせていただいています。もともと40人だったのを定員変更後で60人受入れ可能として、美南園に在席していた方が入れるように法人側でいろいろ工夫をして受入れをしております。以上です。

○武藤 あすか園が定員増員とか、朋生園の方も定員いろいろ変更して受入れされたということなんですけれども、今までどおりの活動というのは保障されているんでしょうか。

○障害福祉課長 例えば美南園に在席していた職員の方があすか園とか朋生園に移動することによって、支援をする方も一緒に移動しているので、そういった意味で

は、移動することのデメリットというか、そういったことはなるべく軽減をされているというふうに考えております。以上です。

○武藤 美南園は高柳にありました。利用者は旧沼南町の方が多いのではないかとと思いますが、高田にあるあすか園と新柏のほうにある朋生園までは距離があると思うんですけども、送迎はどうしていますか。

○障害福祉課長 まず、朋生園に関しては、バスを2台から3台に増やしまして、バスの送迎ルートをいろいろ工夫して、もともとの美南園の方をバスで送迎するというのをさせていただいております。あと、もう一つのあすか園のほうに関しては、旧美南園のところに送迎のバスというか、ミニバンのようなもの、そういったものを走らせることによって、そちらで必要な方に関しては送迎を行っているというふうに聞いております。以上です。

○武藤 バスの送迎があるということですけども、結構距離があって時間がかかるんじゃないかと思うんですけども、それについてはどうですか。

○障害福祉課長 こちらでちょっと聞いている範囲では、1時間以内には何とか送迎はされているというふうに聞いております。以上です。

○武藤 建て替えについては市民の問題でみたいな答弁がありましたけれども、利用者の方が現在朋生園やあすか園に通っている方と美南園から移動された方を含めて不利益な状態にならないように、建て替えについても市のほうでも真摯になって一緒に早期に実現できるような形で行ってほしいと思います。

それから、新型コロナウイルス感染症の予防接種事業なんですけれども、先ほどからお話ありましたけれども、コロナワクチンはほかのインフルエンザなんかと違って感染症がインフルエンザより高いというようなことも言われているので、そういう意味ではワクチンを受けたいという人が受けやすいような形で自己負担の額を船橋、松戸、市川なんかでは2,000円ということなので、そういう負担を少なくしようというような検討はされたんでしょうか。

○健康増進課長 自己負担額の検討につきましては、他市の状況もきちんと確認をいたしまして、その上でいろいろなシミュレーションに基づいてどの額がいいかという検討はいたしました。その結果としまして、35%の御負担をいただくということにさせていただいたという経緯があります。以上になります。

○武藤 対象外の方は自己負担が1万5,300円ということで、先ほどの答弁を伺ってちょっと私もびっくりしたんですけど、昨年度と今年度のワクチンの金額があまりにも違い過ぎると思ってちょっと驚いたんですけども、その対象外の方が心配でワクチンを受けたいという場合に1万5,300円という金額がやっぱり負担が重いんじゃないかと思うんですけども、これについてはどうですか。

○健康増進課長 対象外の方につきましては、定期接種の枠組みから外れてしまいますので、任意接種という形の位置づけになります。ですので、おっしゃるような金額としてはかなり高額になりますけれども、全額自己負担でお願いしたいというふうに考えております。以上になります。

○武藤 まだ感染症が発症し続けていますので、負担が重くてワクチン接種をためらうようなことがないように、対象外の方についても負担軽減などを国に対して求めていただきたいと思いますし、また市としても軽減策を検討していただきたいと思います。あと、お知らせなんかはどうするのでしょうか。

○健康増進課長 市民の方へのお知らせにつきましては、全戸配布の広報かしわやホームページ、あとポスターを作成いたしまして、公共施設や各医療機関のほうに掲示をしていただくように考えております。以上になります。

○武藤 コロナの感染を防ぐということではワクチンの有効性が認められるものの、やはり副反応のリスクがあるということは市民に明らかにしていただきたいと思います。また、国に対しても予防接種の救済制度の改善などを求めて、被害者が一刻も早く救済できるように求めていただきたいと思います。

あと、音声マイニングシステムの導入なんですけれども、これは具体的にはどういうことか教えてください。

○福祉政策課長 まず、今回の音声マイニングシステムですが、福祉関係の相談事業に活用することを考えているシステムです。まず1つ目としては、こういったしゃべっている言葉、音声のデータを文字化する、そういったシステムで、そこに加えて今回は文字化したシステムの中から相談内容によって若干のガイダンスを行う。あわせて、この音声、テキスト化したもの、例えばこうやってしゃべると、例えばそのみたいなのも当然文字化されるんですが、その内容を要約していくというようなシステムになっています。これにより、相談記録などの作成は非常に時間がかかる。漏れが出てしまったりすることもあるもののうち、きちんと漏れがなく記録を取ることができるということ、それからもう一つは、例えば困難事例などを共有する場合に、共有する相談受付の支援者のほうできちんと必要な部分を共有しやすくなること、そういったことを見込んでいます。以上です。

○武藤 あと、若手人材の育成というのがあったんですけど、それはどういうことでしょうか。

○福祉政策課長 この相談記録を作成するというのは、話している言葉をそのまま記録していくということはなかなかできない。慣れてくるとできるものですが、例えばこういう質問があったときにはこういうことも聞いてみましょうということは我々も相談業務などに当たっていくときに先輩から教えてもらったりしながらやっていくところです。ただ、今特にこういった福祉関係の人材の不足というのが言われている。これは相談支援も同じようなことがありまして、なおかつそれとは反対に相談数が増えていく。そういう中で、なかなか我々が受けてきたようなノウハウの伝授というのが昔に比べると密にはできない状態になっています。そこで、例えばこの音声マイニングのシステムのところで例えばこういうことを聞かれたらと。例えばなんですけど、例えば虐待というような言葉が出てきた場合に、ガイドの中で例えばどのようなけががあったのか聞きましょうとか、どこをけがしているんですかとか、あざがあるとしたらどんな状態ですかと。あざはありますか、あざの状

態はどんな感じですかというようなことを聞きましょうということ聞いていく。それ以外のものでもそうなんですけど、そういった形で、ベテランの方だったら、虐待と聞いたら、ああ、そうですか、大変ですねではなく、その次をもう少し掘ってみましょうというところをやっていく。そこをアシストしていくというようなことで、若手の人材育成に活用したいと思っています。以上です。

○武藤 AIの活用で具体的に相談内容が深まっていくというのは非常にいいことだと思うんですけども、反面AIに頼りきりになるということが心配される部分でもあるので、それについてはどうですか。

○福祉政策課長 確かに委員おっしゃるように、まだAI技術にしても当然発展途上といいますか、まだこれからどんどん進化していくものだと思います。任せきりではなく、ここを通じてその方の支援者としての相談力を上げてもらうということに重点を置いてこの事業を進めてまいりたいと思います。以上です。

○武藤 AIを活用しながら、よりよい相談支援につなげていただけるようにしていただきたいと思います。

生活保護のシステムの標準化なんですけれども、これについてはどのようなメリット、デメリットなどがあるのでしょうか。

○次長兼生活支援課長 メリット、デメリットに関してなんですけれども、現時点では生活保護業務でのメリットという具体的なものはちょっとまだ想像できないんですけども、国が示しているガバメントクラウドを活用した標準化のメリットとしたしましては、業務の効率化、運用コストの削減、セキュリティーの強化というところが挙げられております。デメリットのほうなんですけれども、基本的に現在は各市がやりやすいようにカスタマイズしながらシステムを活用しているところなんですけれども、この辺りが標準化でできないことも出てきますので、その辺りを運用でどのように回避するかというのが現在の課題になっております。以上です。

○武藤 全国的に同じようなシステムにした場合と今の柏市のシステムでは、どちらのほうがりやすいと感じますか。

○次長兼生活支援課長 柏市のほうでは、生活保護システムは非常にカスタマイズしながらいいものをつくらせていただいているところで、正直標準化になりますと若干運用の部分が多くなると現在感じております。以上です。

○武藤 せっかく柏市のほうでいいシステムがあって、やりやすいと言っているのに、それを全国の標準に合わせる必要があるのかなと思うんですけども、生活保護の事業というのは本当に一人一人に合わせて保護費を支給するきめ細かな仕事だと思いますので、現場が混乱すれば保護の利用者にとっても不利益を被ることになりますので、国の言いなりではなく現場の声を大事にして、国に対してもしっかりと意見を言っていただきたいと思います。以上です。

○北村 音声マイニングシステムなんですけれども、今話がありましたが、これは8市が共同調達というのは、重層的支援体制整備に取り組んでいるから、この8市ということでもまずよろしいのでしょうか。それ以外の理由は何かあったりするのでしょうか。

うか。

○福祉政策課長 少し前段になりますが、今回この8市というふうに決まる前に、まずこれももとは県が相談事業の充実というところで考えていたというようなことです。その中で、こういったことができるんじゃないかというようなところを受けて、千葉県の方から既にこの重層的支援体制整備事業を始めている、13市だったかと思いますが、そこに県から、始めていたのは12市と、それから千葉市です。この合計13市に、こういう事業があるので、一緒に参画しないというようなお声がありました。我々もそれを検討した結果、今回我々のほうでもこちらのほうと一緒に共同調達のところに参加させていただくという判断をしたところですので、今回はちょっとまだやらないといった市もございました。以上です。

○北村 ありがとうございます。その参加しないと言った自治体は、どういうデメリットなどを考えて参加しないというようなことを考えたのか、分かったら教えていただきたいと思います。

○福祉政策課長 それぞれの市の中でそれぞれお考えになったところですが、その辺のところははっきりは分かりません。ただ、例えばまだちょっと今では時期尚早なのではないかというふうな考えがあったとか、あとちょっと金額的にどうだろうかというふうに悩んだとかという話は漏れ聞いてはおりますが、それぞれの自治体さんの御判断かと思います。以上です。

○北村 全ての部署で、全ての事業においてそういう行政評価というのはなさっているとは思いますが、これから始めて、何がどういうふうに変わっていったかというのはぜひ注視をしていただきたいなと思いますし、こういうAI技術を使いながら、まさに業務負担を軽減しながら、例えばほかの業務に注力したり、早く帰宅して早く休むとか、そういうことはすごく重要だと思うので、議会事務局さんなんかもいつもいろんな記録とか文字をチェックしていただいたりしていますけど、こういうところを活用すべきなんじゃないかなと思います。

そこで1点だけ、こういうシステムを導入したときに今ある業務負担がどういうふうに変化して、ほかの業務に取り組むとか、私はすぐ帰って休むとかも重要なことだと思うんですけども、そういうところでどういうふうはこのAIチャットとか音声マイニングシステムを活用したことによって変化していくのか。ほかの人材を例えば採用したりとか、いろんなことが考えられると思うんですが、どういうふうに変化していくかというのを最後にお聞きしたいと思います。

○福祉政策課長 我々がこのシステムを導入するに当たっての期待というようなところかなと思うんですけども、先ほど申し上げたような人材不足の中で実際福祉関係の相談件数が増えたり複雑化したりというような事情があります。相談支援とかを行っている方も、年齢的にもまだ若い方もどんどん手を挙げて入ってくださっているような状況もあります。その中で、こういったデジタルでアシストしていただける部分はアシストをしていただいたところで、例えば今回のシステムだと要約までできますので、要約したものを例えば相談者の中でもんだりしてとか、あとそ

れからもうちょっと直接的な支援にフィードバックをしたりとか、そういった本来もう少し私たちがというか、市民の方が必要としている支援に少しでも時間を割くというか届けるような、そういったことになるというものも人材育成、それからデジタル化による事務の省力化によって生み出していきたいなということを期待しています。以上です。

○北村 お願いします。県のホームページでも、AIチャットボットとか、こういうものをホームページとかSNSに導入と。ちょっと無機質になるんじゃないかなというふうなことも想定されるし、ぬくもりとか、対面で御相談とかに対応していただいている福祉とか、そういう健康の関係者とかには本当に敬意を表しますけれども、AIとかで対応すべきものとか、そっちでやる方がいいこともあると思うんですが、やはりその切り分けというか、そういうのは人間がやっていくものも多いと思いますし、そういうふうに話を直接聞いてほしいとか、ただ話を聞いてほしい、一緒にいてほしいという方にちゃんと寄り添えるように今回の事業を生かしていただければ幸いです。以上です。

○古川 幾つか確認をさせていただきたいんですけど、美南園の件ですけども、あそこの美南園ができた経緯。たしか手をつなぐ育成会さんの何か作業所をたしか統合して造ったような記憶があるんですけども、もともとあの建物は沼南町のものだった、それを市が引き継いだみたいなの、そういうイメージですか。

○障害福祉課長 委員さんおっしゃるとおり、昭和46年度に旧沼南町において旧高柳区民会館として整備したものを柏市と沼南町が合併するときになって沼南地域の集会施設の無償譲渡をしてくれるということで、福祉の施設にということで、障害福祉課のほうで跡地利用として利用をさせていただいています。利用団体のほうをそのときの障害福祉課のほうで公募したところ、社会福祉法人かたくり会、おっしゃるとおり手をつなぐ育成会のほうに選定をさせていただいて、知的障害者を対象とした事業所としてこれまで運営をしてきたということになります。以上です。

○古川 ちょっと細かい話ですが、これは賃貸料とか取っていたんですか。

○障害福祉課長 賃貸料に関しては年間で81万9,053円で、建物分になります。土地に関しては、先ほど申し上げましたように民地ですので、土地所有者とかたくり会の間で土地の賃貸借契約を締結しておりまして、賃借料は年間20万円と聞いております。以上です。

○古川 いろいろ合併のときの経緯とかあるんだと思うんですけど、結構割安ですよ。あそこお墓の隣ですよ、高柳のところの。分かりました。

あと、これも法人さん内の話だと思うんですけど、もう少し近いところにあったような気がするんですよ、あの就労継続の施設が。わざわざ高田のほうに、利用者の方も納得をされているんだと思うんですが、そこら辺は全て法人さんのほうにお任せをするという感じだったんですか。

○障害福祉課長 基本的にはかたくり会の中でその利用者のほうを調整するということで、ちょっと言い方がありますがけれども、かたくり会のほうの運営ということ

も多分あるのかなと思いますので、かたくり会のほうで調整をしております。以上です。

○古川 朋生園のほうにお願いするという話でしたよね、さっきのは。朋生園は柏市が指定管理をお願いしているんですよね。そこの定員を増やしたんですか。

○障害福祉課長 朋生園の指定管理の先が一応かたくり会ということになっていまして、朋生園の場合は、定員を増やしたというか、中の生活介護と就労支援のほうの定員をやりくりして、そのニーズに合った形で調整して入れたと。もともとちょっと空きの定員もあったというふうに聞いておりますので、うまい具合に入ったというような形と聞いております。

○古川 細かいことは後でまた教えてください。ありがとうございました。

○林 あすか園のほうは定員を増とさっきおっしゃったと思うんですけど、その施設としての要件とか、人権の部分とか、それはもう大丈夫だという判断だったんですか。

○障害福祉課副参事 今委員おっしゃったとおりでございます。以上です。

○委員長 ほかにございますでしょうか。——なければ質疑を終結いたします。これより採決いたします。

○委員長 議案第15号、令和6年度柏市一般会計補正予算、当委員会所管分について採決いたします。

本案を原案のとおり可決するに賛成の方の挙手を求めます。

挙手多数であります。

よって、議案第15号、当委員会所管分は原案のとおり可決すべきものと決しました。

○委員長 以上で第1区分の審査を終了いたします。

次に、第2区分の審査に入りますが、関係しない執行部の方は退席されて結構です。御苦労さまでした。あわせて、関係する各課で入室していない方は入室をお願いいたします。

ここで暫時休憩いたします。

午後 1時54分休憩

○

午後 1時59分開議

○委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

○委員長 質疑を続行いたします。

次に、議案第2区分、議案第1号、専決処分について、柏市重度心身障害者医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

それでは、本議案について質疑があれば、これを許します。

○林 それでは、専決処分について伺いたいと思います。内容に関しては特に問題はないと思うんですけど、ちょっと金額のことを確認したくて、令和5年度の助成額が6億5,178万円だったと。これ国庫負担が2分の1なんですよ。

○障害福祉課長 こちらのほうは、県の事業になっておりまして、千葉県から2分の1の補助金となっております。

○林 事前にお話を伺ったときに予算への影響額が年間1,548万円だというふうに伺ったんですけど、この部分の2分の1も県費が出るということなんですか。

○障害福祉課長 おっしゃるとおりで、かかった費用の2分の1。対象が県の要綱と同じですので、2分の1の助成があります。以上です。

○林 それで、当初予算の計上はどうなっているんですか。これは延長するというで計上しているんですか。それとも、何か予備費とか、そういうところですか。補正とかでは見られなかったと思うんですけど。

○障害福祉課長 この分も一応見込んで、見込みとしては、もうちょっと人数としてはざっくりと多めにとか、必要な分を予算としては計上しているところなので、過不足なく、この分も一応足りるということで予算措置のほうはさせていただいております。以上です。

○林 これまでも平成24年、27年、30年、令和3年と3年間ずつ延長してきているということで、国も必要性が高いだろうと思っているからずっと延長しているだろうと思うんですけど、だったらそもそもの医療費の所得制限自体なくしちゃえばいいのと思うんですけど、こういうのは国会とかではあまり議論されていないんですか。何でこの3年ごとの延長をずっと続けているのかなというのが不思議なんですけれど。

○障害福祉課長 こちらの制度に関しては、国の自立支援医療、この重度心身障害者とは別に障害者総合支援法の中の自立支援医療のところを県の要綱が見ているということなので、自立支援医療のほうはその3年ごとに同じように重度かつ継続であれば医療費の助成のほうが所得制限に関係なく負担するというようになっておりますので、どうしてかというのは、申し訳ありませんが、私のほうはちょっと分からない状態です。以上です。

○林 国じゃないのか。県が必要性を感じるから延長しているということなんですかね、そうすると。

○障害福祉課長 説明が悪くて申し訳ないんですけども、県の補助要綱というのがあって、県の補助要綱のほう障害者総合支援法の国のほうの自立支援医療がこうだったらこうなるという書き方になっているので、国の自立支援医療のほう延長になると、自動的に県の要綱もそこを読んでいるので、それで延長するという形になっているので、大本をただせば、国のほうの障害者総合支援法のほうでそういった改正とか、所得制限を設ける予定だったけれども、設けないという措置をしたからということになります。以上です。

○武藤 林さんが今おっしゃったことと同じなんですけれども、結局重度心身障害者の非課税世帯は無料で、同一健康保険世帯で市民税が23万5,000円未満の方は通院300円、入院1日300円で助成を受けられると。所得制限の対象外の23万5,000円以上の方でここに書いてある高額治療継続者の条件に合った人は助成対象にしますよということなんですよね。これ以外の方というのは、現にこの対象から外されている方もいるんですか。

○障害福祉課長 委員おっしゃるとおりで、あくまで重度かつ継続に該当する方だけが所得制限があって、所得制限で対象外になっても対象になるということになりますので、重度かつ継続に当たらない方に関してはこれまでどおり助成の対象外ということになります。以上です。

○武藤 何度も延長になっているということは、やっぱりこれは必要だから延長して対象にしているわけなので、重度で高額医療費を払わなきゃいけないような方が延長するというで毎回毎回心配になっているんじゃないかなと思うんですけれども、そういう方はぜひ対象にしていくべきだということを県や国に対しても言っていただきたいと思います。以上です。

○委員長 ほかにございますか。——なければ質疑を終結いたします。
これより採決をいたします。

○委員長 議案第1号、専決処分について、柏市重度心身障害者医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

本案を原案のとおり可決するに賛成の方の挙手を求めます。

挙手全員であります。

よって、議案第1号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

○委員長 以上で議案の審査を終了いたします。

執行部の皆様は退席されて結構です。御苦労さまでした。

○委員長 次に、閉会中の所管に関する事務調査の件を議題といたします。

お諮りいたします。お手元の審査区分表に記載された調査項目について、閉会中の事務調査項目と決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決しました。

○委員長 次に、閉会中における委員会の所管事務調査の実施の件を議題といたします。

お諮りいたします。閉会中の所管事務調査については、必要に応じて開催することとし、正副委員長に一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決しました。

○委員長 次に、閉会中の委員派遣の件を議題といたします。

閉会中の審査及び調査案件の調査のため委員派遣を行う必要が生じた場合、議長に対し委員派遣承認要求を行うこととし、派遣委員、日時、場所、目的及び経費等の手続につきましては正副委員長に御一任願いたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決しました。

○委員長 以上で本日の健康福祉委員会を閉会いたします。

午後 2時10分閉会